

## 「延世大学校スプリングスクール派遣参加報告書」

京都大学経済学部 2年 山田玲菜

延世大学校スプリングスクールの学習で、韓国語で会話をするということを目指しました。

私は京都大学で第二外国語として韓国語を学ぶことを選択し、この派遣に参加するまでに中級の授業を修了していました。実際に韓国語で会話をする経験がしたいとこのスプリングスクールに志願しました。この派遣に参加した結果、「韓国語を口に出すことが怖くない、積極的に話したい」と私は思えるようになりました。延世大学校のプログラムは洗練されていました。10人程度で構成された班では、全員に均等に発言のチャンスがありました。同じレベルの生徒が集まっているからこそ、失敗を恐れずに授業に参加することができました。また、先生と生徒、生徒同士の対話の機会が多く与えられました。毎日、昨日は何をしましたか、週末はどのように過ごせましたか、と話す時間がありました。自分の言葉にしっかりと反応が返ってくるので、自信にもつながります。加えて、私は思いも寄らない手段で韓国語のコミュニケーションをとることもになりました。それは、メッセージングアプリケーションでした。まず班でグループを作ることから始め、先生に宿題を送ることも用いました。アプリケーションを持っていなかったので使い方に苦労しましたが、先生が気軽にメッセージを送ってくださって試験の応援もいただき、たいへん嬉しかったです。先生から突然電話がかかってくることもあり、驚きましたが、韓国語で電話する経験として成長できたと思います。

このスプリングスクールで、私は英語への姿勢に大きな変化がありました。

私は英語が得意ではありません。特に、会話をするということについては全く自信がありません。そんな中、2回の学生交流セミナーは使用言語を英語として行われました。オンライン開催ということや、内容が専門的であったこともあり、会話の内容についていけず、何も質問をすることができませんでした。また、韓国語の授業においても時折英語を交えて説明が加えられ、他の生徒とは韓国語でうまく表現できない場合は英語によって会話することもありました。私が所属した班のメンバーは、出身や母語は本当にさまざまでしたが、その大半が現在韓国で働いていました。彼らの仕事や日常について知ると、国際的に活躍するには英語が必要であることが理解できました。この派遣は、英語という言語がどれほど広く用いられていて、どれほど重要であるかを痛いほど感じる機会になりました。以前の私は、英語を勉強することに義務のようなものを感じ、それからできるだけ逃れるようにずっと考えていました。しかし、スプリングスクールを通して、韓国語という私の母語ではない言葉で会話する楽しさを知りました。そもそも韓国語を学ぼうと思った理由は、自分が好きなアーティストについて理解したい、話している言葉を理解したいからでした。授業において、先生やさまざまな生徒の言っている言葉の意味がわかると、たいへん嬉しかったです。しかし、しばしば発言の内容を汲み取れず、相手に申し訳なく悔しい思いをすることがありました。毎日、「もっと理解したい」と努力する日々でした。そして、話者の言葉の内容を理解できず心苦しいと感じたのは、英語も同様でした。延世大学校の生徒が多くの時間をかけて準備をされたのに、セミナーでは有意義なディスカッションをすることに貢献できませんでした。相手を理解したい、そのために韓国語だけでなく、より広いコミュニケーションを目指して、英語に取り組みたいと新しく進み始めました。